メリダ（ベネズエラ共和国）の思い出

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 薬品分子分析化学分野
田中 秀治 たなか ひでじ

平成15年12月、12日間の日程でベネズエラに出張し、メリダ(Merida)市で開催された第12回フローインジェクション分析国際会議に出席した。同市は首都カラカスから西に700km、5000m級の山々に囲まれた標高1600mの常春の町である。

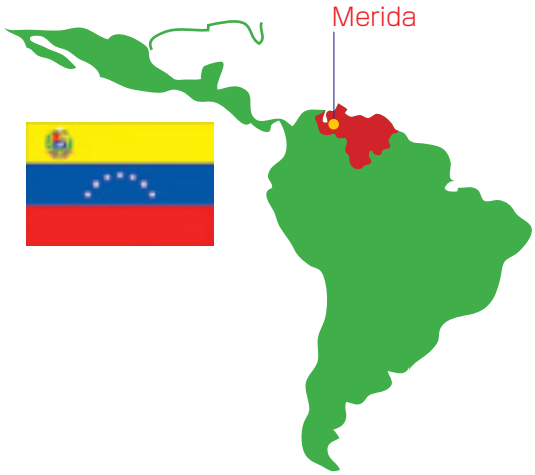
世界地図にメリダという小さな文字を見つけたときは、こんな奥地まで無事にたどりつけるのかと心配になった。外務省からは、政情不安を理由に渡航注意の情報が発せられていた。さらに、黄熱病の予防接種のため、神戸検疫所まで行かねばならなかった。幸い、治安については議長のブルゲラ教授(ロス･アンデス大学)から「私はこの歳まで生きてきた」との心強い(?)連絡があった。日本からの参加者に同行させていただき心細さはなかったが、移動のため往復で延べ4日間、10便(伊丹⇄成田⇄シカゴ(復路ニューヨーク)⇄マイアミ⇄カラカス⇄メリダ)を乗り継ぐ強行軍であった。

国際会議会場(Hotel Belenzate)

国際会議は、閑静な住宅街にコテージ風の棟が建ち並ぶBelenzateホテルで開催された。7日間の会期に、43件の講演、64件のポスター発表があった。筆者は初日午前に講演を終えたので、以降はリラックスして聴講することができた。4日目に公式ツアーがあった。メリダが誇る世界最高地点(4765m)まで達する総延長12.6kmのロープウェイを楽しみにしていたが、あいにく修理中とのこと。代わりに、標高4118mのAguila峰頂上までのバスツアーとなった。歩くだけで目眩がする4000 m近い高所にも人が住んでおり、驚きであった。

食事は円盤状に練ったトウモロコシ粉(?)を焼いたものが主食である。口に合わない人が多いようだったが、筆者は珍しいものは何でも喜んで食べた。トロピカルフルーツは原種に近いのだろうか淡泊な味だった。特産品のチョコレート、コーヒー、ラム酒はさすがに美味である。

メリダ市中心街(ボリバル広場の露店)

通貨はボリバル(Bs:ベネズエラの英雄の名)で、インフレのため値札には多くの数字が並んでいる。しかし、物価は驚くほど低い。7泊した上記高級ホテルの請求Bs 456706(含、食事代)も、実は25000円程度である。タクシー代(メーターがなく筆談交渉)は、数km程度ならBs 2000(100円強)である。

メリダははるか遠く、恐らく二度と行くことはできないであろう。親切にして下さったロス･アンデス大学の皆様、美しい自然と街並み、陽気な人々を清々しく思い出し、このような機会に恵まれたことを感謝している。